

10月の安全・衛生・防災管理・活動

— 盛りだくさんの労働衛生管理・活動等を —



10月は快適な気候のなか、労働災害や疾病も他の月に比べると少なく、じっくり安全衛生管理・活動に取り組むことが出来る時期です。しかし、3年来のコロナ禍はまだ油断がでない状況です。また、ウクライナでの戦争は、世界を巻き込み、私たちの生活や生産活動にも様々な影響を及ぼしてきています。

私たちはこんなときほど、落ち着いて安全衛生管理・活動にしっかり取り組み、推進していく必要があります。

10月は例年、国や関係団体等が推進を呼びかける「全国労働衛生週間」です。また「健康強調月間」、「体力づくり強化月間」などの行事を通じて、健康づくり、快適な職場環境づくりに取り組むことになっています。

そして10月は、8日「骨と関節の日」、(10月11日「目」の愛護デー)、17日から23日は「薬と健康の週間」など、健康に関する行事が盛りだくさんです。積極的に参画しましょう。

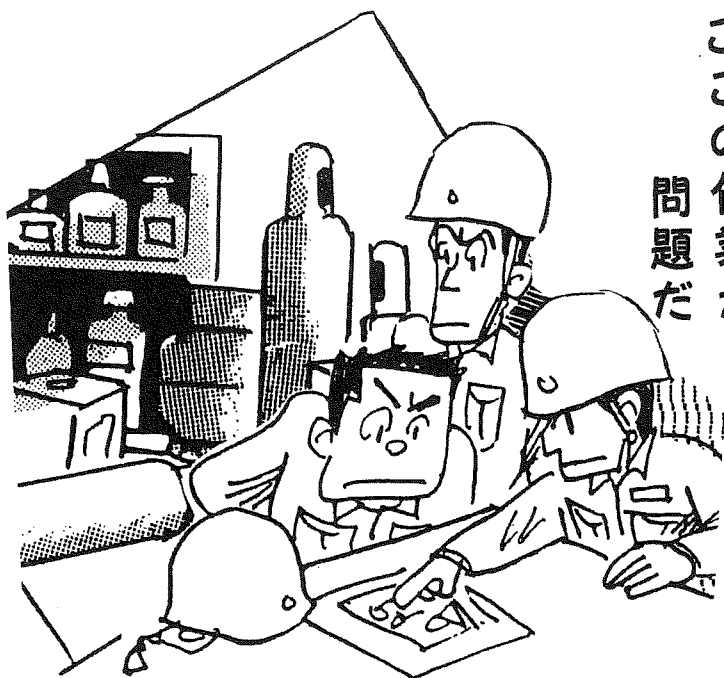
また10月23日からの1週間は「高圧ガス保安活動促進週間」です。そして10月は9月に引き続き「自動車点検整備推進運動強化月間」です。高圧ガス設備や容器、自動車の事故要因として「腐食、サビ、摩耗・劣化」が問題視されています。念入りの点検・整備が肝要です。安全衛生管理・活動にとつて厳しい冬季の前に、しっかり安全衛生に取り組みましょう。

労働衛生管理・活動の充実を図ろう

— 作業環境管理・作業管理・健康管理 —

10月1日から7日までの1週間は「第74回国労働衛生週間」(厚生労働省・中央労働災害防止協会)です。我が国では「労働衛生」は「労働安全」に比べて一般的に関心が低いようですが、労働衛生管理の無関心や手抜きが弊害が石綿障害のように30年・40年後に重大な健康障害として現れてくる場合があります。

この作業が
問題だ



次の事項の推進・充実を図って行きましょう。

○作業環境管理の推進 作業環境中の種々の有害が要因を取り除いて良好な作業環境を確保するもので、働く人たちの健康障害を防止するための根本的な対策の一つです。

○作業管理の推進 有害な物質やエネルギーが人に及ぼす影響は、作業の内容や方法によっても異なります。これらの要因を適切に管理して働く人への影響を少なくすることが重要です。

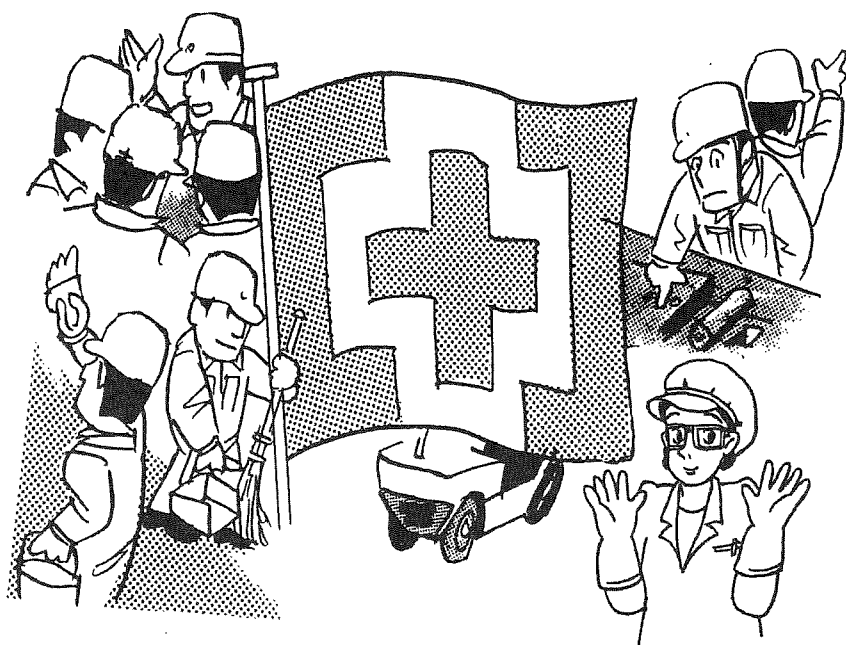
○健康管理の推進 健康診断や健康測定に基づく事後措置が重要です。また、これからの健康管理は高齢化社会を考慮した長期的な観点から高年齢期になっても、心身ともに健康で快適な生活ができるよう、計画的に推進していく必要があります。

今年の全国労働衛生週間のスローガンは「目指そうよ二刀流 ころとからだの健康職場」というものです。

心身両面にわたる健康づくり、メンタルヘルス対策、過重労働対策なども労働衛生管理・活動の重要な課題になっています。

仕事のプロの安全作業12則

—— 仕事のプロは安全活動もプロ ——



私たちは自分の持ち場の仕事についてはプロです。したがって、仕事に不可欠な安全衛生についてもプロであるべきです。

仕事と安全衛生のプロとして、日常、次の事項について意識し、実施しているか自問自答してみましよう。

- ① 仕事場へは時間に余裕をもって出勤している。
- ② 作業の前に、安全衛生の確保を考え、決められた作業前点検は必ず実行している。
- ③ 自分の安全優先の仕事に誇りを持っている。
- ④ いつも先を読み、危険を予知・予測して安全に作業を行っている。
- ⑤ 作業のムダ・ムラ・ムリをしない（作らない）よう段取りよく仕事を行っている。
- ⑥ いつも整理・整頓・清掃・清潔を心掛け、きちんと実施している。
- ⑦ 決められたルールや、作業手順等は必ず守っている。
- ⑧ いつも明るくチームワークを大切にしている。
- ⑨ 作業の危険性や有害性を熟知し、分からないことは上司等に確認している。
- ⑩ 決められた合図や指差し呼称は大きな声と動作で明確に行っている。
- ⑪ 自分や同僚の心身の健康を気遣い、規則正しい生活をしている。
- ⑫ 「ヒヤリ・ハット」は必ず報告し、安全対策に役立てている。

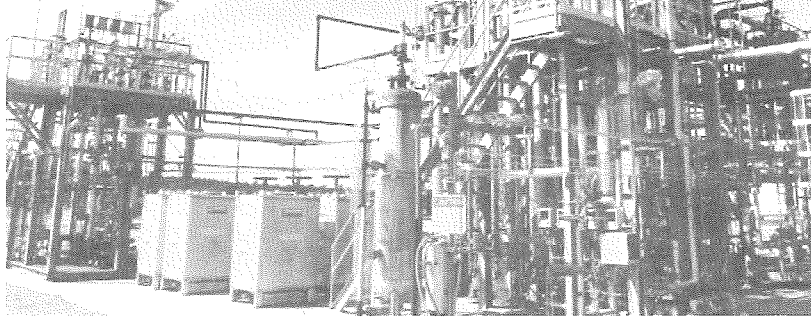
要注意 設備等の腐食・劣化

表面からは分からない腐食の状態

鉄剤の腐食による事故・災害の内訳例

①腐食による材料強度の低下によるもの	35%
②腐食に伴って発生したガスによる 圧力増加によるもの	20%
③構築材料と液体の異常反応によるもの	15%
④腐食箇所からの液の流出によるもの	12%
⑤腐食生成物によるパイプの閉そくによるもの	8%
⑥腐食により装置の釣り合いが くずれたことによるもの	5%
⑦サビつきによるもの	5%

…など



定期的に設備の点検・検査をやっている「異常なし」の状態だったのに、ある日突然設備が破壊して大事故に！。

この原因は、鉄材の腐食が塗装で隠されていて腐食の状態が分からなかった、というものです。高速道路や鉄道の設備をはじめ、建築物や

製造プラント、装置や機械などの鉄材の「腐食」による事故や災害が後を絶ちません。

腐食の原因は電気化学的、水による腐食、酸化による腐食、有機物・微生物による腐食、電食や応力等によるものなどがありますが、毎年生産される鉄の約10%は、腐食やサビで失われているといわれています。

特に我が国のような多湿の国では、思わぬ速さで鉄材の腐食・劣化が進んでいることが想定されます。

鉄材等の腐食の多くは、設備等の裏側やペンキ塗装の下など、ふだん見えない箇所が発生して進行していることが多いものです。

身の回りの構築物や職場の設備の多くは鉄材で作られています。これらの鉄材は時々刻々と腐食が進んでいると考えなければなりません。設備等の点検やリスクアセスメントを実施する際は、鉄以外の材料等を含めて、これらの腐食による劣化を念頭に点検・検査を実施し、危険性を想定して安全対策を検討する必要があります。